

【ICSD 総会でのプレゼン内容】

2025 デフリンピック大会ビジョン

一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会

2025 デフリンピックが目指すもの

東京は、東京 1964 大会、東京 2020 大会と二度のオリンピック・パラリンピックを経験した。

そのレガシーは、街やインフラ、施設の整備、またスポーツ（障がい者スポーツを含む）の発展と、日本を変えた。

私たちは、2025 デフリンピックを開催するにあたり、以下の 4 つを大会コンセプトにあげる。

1. デフアスリートを主役に、そしてデフスポーツの魅力を伝え、人々や社会とつなぐ
2. デフリンピック・ムーブメント“誰一人取り残さない”世界（SDGs）の実現
3. デフリンピック 100 周年そして歴史的な大会
4. オリンピック・パラリンピックのレガシーの活用とさらなる飛躍

大会コンセプト 1.

◎デフアスリートを主役に、そしてデフスポーツの魅力を伝え、人々や社会とつなぐ
パラスポーツは、今や、人間の無限の可能性を示す形となりつつある。

しかし、パラスポーツ全体に比してデフスポーツはまだ社会的な関心が低く、また、さまざまな人々、社会等とつながりを持つようにも、コミュニケーションの壁により、困難な状態が続いている。そのため、デフアスリートたちは十分とはいえない練習環境の中で競技を続けている。

2025 デフリンピックではデフアスリートを主役にし、社会へデフスポーツの魅力を発信し、社会や人々とデフスポーツ・デフアスリートをつなぐ。

大会コンセプト 2.

◎デフリンピック・ムーブメント“誰一人取り残さない世界（SDGs）”の実現

1964 年に東京で開催されたオリンピック・パラリンピックは、日本における障害者に対する意識を変えた。

東京 2020 大会は、「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント」が街や心

のバリアフリーの推進力となり、社会の変革が起きた。

2025 デフリンピックでは、障害のある人とない人とのコミュニケーションや情報バリアフリーを推進し、街・心・情報バリアフリーの共生社会へのさらなる変革を起こしていく。

「デフリンピック・ムーブメント」で、“誰一人取り残さない世界（SDGs）”の実現をめざす。

大会コンセプト 3.

◎デフリンピック 100 周年そして歴史的な大会

1924 年にパリで、第一回目の夏季大会が開催されてから 100 年近くの歴史があるデフリンピックは夏季・冬季大会とも日本では未開催である。

100 周年となる 2025 年に日本でデフリンピックを開催することで、日本はオリンピック、パラリンピック、スペシャルオリンピックス、デフリンピックの 4 大会全てを開催することとなり、歴史に残る大会となる。

大会コンセプト 4.

◎オリンピック・パラリンピックのレガシーの活用とさらなる飛躍

2025 デフリンピックでは、東京 1964 大会と東京 2020 大会の施設やレガシーを活用したコンパクトな大会を目指す。

また、2025 デフリンピックを、きこえない人ときこえる人が共に協働して開催成功させることで、さらに一歩進んだ共生社会の理想の形を社会や世界へ示す。

そして、日本におけるデフスポーツ、パラスポーツ全体の発展・飛躍を目指す。

2025 デフリンピック大会概要

私たちは 2025 デフリンピックの日本開催に向けて、5 年以上も準備を進めてきた。

政府、東京都、日本オリンピック委員会、日本パラスポーツ協会等からも、2025 デフリンピックの開催に向けた当連盟の取組に、応援をいただいている。

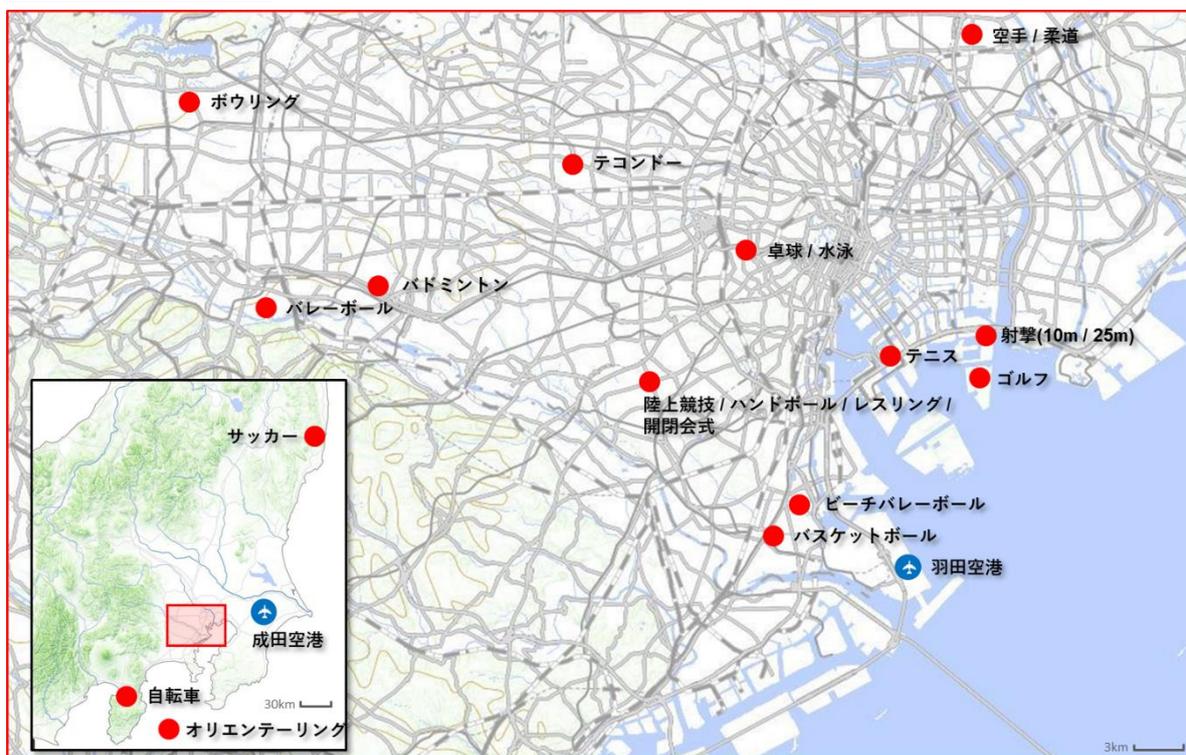
大会概要について、以下の 3 つを説明する。

- 1.開催地、開催日程（案）
- 2.会場配置（案）
- 3.宿泊・輸送の方針

開催地、開催日程（案）

東京 2025.11.15（土）～11.26（水）全 12 日間

会場配置（案）



この地図は、国土地理院発行の標準地図に準拠しています。

アクセス

- ◎成田空港から東京までバスで 90 分
- ◎羽田空港から東京までバスで 40 分

競技会場

主に東京都内。サッカー競技、自転車競技は他県で開催予定（射撃競技〈50 m〉会場は調整中）

会場配置の考え方

◎充実した施設

東京・日本におけるスポーツ施設は非常に充実しており、参加選手にとって良い環境でプレーすることができる。

◎オリンピック・パラリンピックのレガシー

東京 1964 大会と東京 2020 大会の競技施設を出来る限り活用する。

◎ICSDの要件をクリア

本会場配置図は2022年8月31日時点で、ICSDの競技要件を満たす会場を選定し、計画案として作成したものである。

◎会場の確保

会場所所有者及び関係者とは、招致が決定した場合、大会での使用に合意頂く方向で調整を進めている。

◎会場の配置

会場は主に東京都内で、ホテルからバスで約60分以内。なお、サッカー競技、自転車競技は、他県で会場案を計画、調整している。

◎会場変更の可能性

万一、計画する会場が何等かの事由により利用できなくなった場合には、2022年8月31日時点のデフリンピック規約に基づいた競技要件を満たす会場を別途確保する。

会場（予定）

東京1964大会と東京2020大会で使われた競技施設が、2025デフリンピックの会場としても予定されている

競技会場案（参考）

0	開閉会式	駒沢オリンピック公園総合運動場	12	テコンドー	麒麟レモンスポーツセンター (中野区立総合体育館)
1	陸上	駒沢オリンピック公園総合運動場	13	水泳	東京体育館
2	サッカー	Jヴィレッジ(福島県)	14	テニス	有明テニスの森
3	卓球	東京体育館	15	ビーチバレー	大森東水辺スポーツ広場
4	バレーボール	府中市立郷土の森総合体育館	16	自転車競技(ロード)	日本サイクルスポーツセンター (静岡県)
5	バスケットボール	大田区総合体育館	17	自転車競技(MTB)	日本サイクルスポーツセンター (静岡県)
6	ハンドボール	駒沢オリンピック公園総合運動場	18	ボウリング	東大和グランドボウル
7	バドミントン	武蔵野の森総合スポーツプラザ	19	ゴルフ	若洲ゴルフリンクス
8	レスリング (フリースタイル)	駒沢オリンピック公園総合運動場	20	オリエンテーリング	伊豆大島
9	レスリング (グレコローマン)	駒沢オリンピック公園総合運動場			
10	空手	東京武道館	21	射撃	10m・25m：警視庁術科センター 50m：調整中
11	柔道	東京武道館			

宿泊・輸送の方針

◎宿泊施設の方針

アスリートが競技に集中できるよう、最適なコンディションを整えることができる宿泊施設を提供する。

東京には、手頃な価格のものからグレードの高いものまで、様々な宿泊施設が数多く存在する。複数の価格設定、オプションを用意する。

◎輸送の方針

宿泊施設から競技会場までは、概ね1時間以内の輸送提供を目指す。

円滑かつ安全な輸送体制を確保し、アスリートの負担を軽減する。

◎空港と宿泊施設間

各国からの選手団の出入国時においても、原則として空港と宿泊施設の間の輸送サービスを提供する。

*2022年9月10日時点の計画である

*2025デフリンピックは、2022年8月31日時点のデフリンピック規約に基づき実施するものである